

組合だより

第103号
1月24日
2007年

発行所 岡山大学職員組合
〒700-8530 岡山市津島中 2-1-1
電話 086-252-1111 (代)
(内線) 7168
直通・FAX 086-252-4148

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/>

メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp



新年ご挨拶

委員長 鈴木茂之



先日岡山県高教組結成50周年の祝賀会があり、岡山大学職員組合を代表して出席させていただきました。おりしも教育基本法をナショナルリズム的な内容に改変する法律が成立した矢先でした。教育基本法は生徒の個性を伸ばすことを保障する法律でした。そのことを啓蒙した、高教組のポスターをバスなどで見られたことがあると思います。高教組の一連の取り組みは、教育基本法の個性を伸ばす精神を再認識させ、点数で選別しがちな傾向を反省して、より良い教育をしようという気運を高めたようです。

良い教育には良い教材が欠かせません。教科書のなかにも優れたものがあります。娘の国語の教科書に「モアイは語る --- 地球の未来」という一文を見つけました。これは環境考古学者の安田喜憲さんがニュージーランドの地質学者と共に、かつてイースター島に栄えた文明の滅亡を明らかにした研究をもとに書かれたものです。小豆島ほどの広さしかない絶海の孤島イースター島は、現在はずかな未開人が住むだけの荒地しかない島です。それにもかかわらず、なぜ高さ20mにも達する巨大な石像が千体以上も並んでたてられているのが謎でした。安田さん達の調査の結果、はじめこの島はヤシの森に被われていたこと、11世紀頃から農業とモアイの製造が興り、16世紀には人口が2万人に達していたことがわかってきました。さらに農地の開発とモアイの運搬のために森林が伐採されて森が失われると、農地の土壌がやせて流亡したためか、やがて荒地になっていったことが、地層に残った花粉の分析などによって解明されています。人口増もあって食料危機に陥り、部族間の抗争とともに、製作中のモアイも放棄されるほど急にイースタ

ー島の文明は崩壊したそうです。

イースター島での森林破壊とそれに続く農地の荒廃は、現在地球規模に拡大しています。安田さんの概算では地球上の農耕地は21億ヘクタールが限度で、それで支えられる人口は80億人ほどですが、今の人口増が続けば2030年にはその80億人を突破してしまうそうです。中世末から近世初めにかけての小氷期の研究に業績があるBrian Faganさんは、地球温暖化などの近年の環境変化は、人為的な影響によって拡大されたことを述べ、その克服には「利他的」な施策が必要であることを述べています。ナショナルリズムへの道では人類の滅亡をいっきに進めるでしょう。

しかし、もしこの「利他的」にならざるをえない状況に適応できれば、私たちはこの危機を乗り越えて、豊かな森林環境を取り戻すことが出来るかもしれません。人類はこれまでいくつかの危機を乗り越えています。石器時代末には大型動物を大量に狩猟しすぎて絶滅させてしまい、食糧難に陥ったと推測されますが、農耕を始めて生き延びます。近世では収奪的な農業経済が行き詰まりましたが、産業革命で再興をなしとげました。人類はなかなかしぶとい生物といえるでしょう。しかし利他的になるには、生存競争の本能を克服しなければなりません。知を高めていけば、大きな困難ですが希望はあると信じています。



第5回執行委員会より

12月18日(火)18時から、第5回執行委員会が開催されました。
主な議題は、12月12日に行われた経営者側との団体交渉についてでした。



すでに組合だより102号でお知らせしましたように、来年度6月のボーナスは、教職員全員の勤勉手当が従来の0.71ヶ月分から幾分か増額されますが、12月のボーナスは勤勉手当が0.71に戻され、32%の成績優秀者が勤勉手当を増額されます。執行委員会では、ボーナスは「厚く広く」分かち合うべきではないかという議論が主流でした。

査定昇給問題

来年度早い時期に団体交渉を



また、査定昇給に関しても議論ができました。団体交渉では、特定の個人が連続して特別昇給するようなシステムになることを危惧して「長期的ビジョンを持った」査定昇給の設計をするよう経営者側に求めましたが、執行委員会では査定が低く昇給できない人が出るのではないかということが議論されました。査定昇給の問題に関しては、来年度のできるだけ早いうちに団体交渉を行うべきだということで意見が一致しました。

その他、トップダウンで各学部を下りてきている教員の教育研修の義務化の問題、ピア・レヴュウの問題、過労等のため心身を病んだ教職員に対する支援体制の問題点、鹿田キャンパスにおける新しい保育所設立の進捗状況やその問題点、附属病院の看護師の皆さんに対するアンケート結果の報告、事務職員の皆さんの査定評価の問題点、特に各自が設定した目標だけにより査定することの是非について議論しました。

「目標達成度査定」 富士通の失敗

各自が目標を立て、その目標達成度により査定するというやり方は、すでに富士通の試みでその不適切さが証明されています。それをなぜ今岡山大で実行するのかという疑問の声が上がりました。しかし残念なことに、岡大職員組合には事務職員の組合員はほんの少ししかおられません。非組合員の方からも、初めての査定昇給の感想を職員組合の方に聞かせていただければありがたいです。思いの外上手くいっているというコメントでも結構です。

教育学部単組では、12月1日に「鍋料理を楽しむ夕べ」が開催されました。高橋学部長、森副学部長を始め、非組合員の事務職員の方も出席され、和

やかで充実した会であったという報告でした。教育学部単組だけでなく、全学的に組合を通しての教職員の輪が広がることを願っています。

座標軸

年明け早々、むごたらしい事件の報道が続いている。閣僚の不透明な政治資金の流れや官製談合など、芳しくない話題も目白押しだ。「美しい国」作りを標榜した人物が首相の座についた時期と平行して、醜悪な情景が次々と浮かび上がってくるのは、なんという皮肉だろう。なぜこんなふうになったのかといえば、それは、日本を含めて世界が理想を失ってしまったからだ、私は考える。ソ連の崩壊は、それまでもかく「理想」として輝いていた社会主義を徹底的に汚泥の中に放棄する結果を伴った。と同時に、世界は、旧社会主義圏や中国などの、恐るべき低賃金をてことする mega competition の中に投げられた。理想をなくして、なんでもできると思った瞬間が、どんなことでもやらなければ生き残れないと思った瞬間と重なってしまったのだ。何をやってもいい、どんなことでもしなければ生き残れない。こうした暗い確信が、その後の世界を突き動かしてきた。そのどす黒いまでの流れが、私たちの世界をどれ程大きく変えたかは、誰の目にも明らかだ。トップたちが深々と頭を下げる謝罪の姿を、私たちは何度見ただろうか。テレビの画面には、犯罪者となった姿が出るけれども、そこにまで至る以前の人々の苦渋は想像に余りある。人々は、不当な処遇を受けてはらわたが煮えくりかえっているに違いない。自分が受けた不当な処置が社会的な問題として取り上げられないと、そのやり場のない怒りは社会へ向けて復讐の念となったり、手っ取り早い抑圧移譲になったりする。DV やいじめもその一例だろう。そこまで行かなくても、私たちのモラル感覚は麻痺し、精神の荒廃は進む。大学も例外ではない。データねつ造や盗作のニュースがあとを絶たない。表に現れない不正は、おそらく数え切れないほど遍在しているだろう。学問が真理や理想に奉仕するのではなく、成果査定の具となった瞬間、学問の破壊はとめどもなく進行する。(k)

ナースたちの生の声に衝撃 看護職員実態調査から



医学部職員組合 書記長 矢田範夫

昨年10月、全国の国立大学病院に勤務するすべての看護師を対象に、全大教の取り組みによる「安全・安心の看護をめざす国立大学病院看護職員アンケート」が行なわれました。岡山大学では看護部の全面的なご協力のもとに、264名の看護師から回答を得ることができました。大学単位の単純集計がこのほどまとまりましたので、回答に見られた看護師の生の声を中心にご紹介します。

1. ナースは疲れている

「妊婦の人が毎年いるが、同じように勤務していてもしんどそう。体調悪い時でも、なかなか言い出せない雰囲気、詰所の中にあると思う。妊娠したら、夜勤免除などあればいいのと思う。他に、小さい子供のいる人は、フレックスな時間に出勤できればと思う。」 本来妊産婦については夜勤免除や勤務軽減などの措置が講じられることになっているはずなのに、現場の多忙化の中で有名無実になっているのでしょうか。母体と胎児の安全を考えると、背筋が寒くなる事態です。

さらに「とにかく体が疲れる。研究もかなりの負担になる。他の仕事もきつく、なかなか自由な時間がない。休みの日も、仕事をしているような感じである。」「仕事があまりにも集中力を要するため、仕事を終えた後でも全く疲れがとれず、精神的にも肉体的にもしんどい思いをしています。」など、慢性的な疲労を訴える回答が非常に多く寄せられました。

2. 長時間労働

「深夜の前や準夜の翌日の休みは、結局労働しているわけで、休みではありません。それでも休みと見なされ、週休2日と言われても納得いきません。」

「もう少しゆとりをもって仕事ができる環境にしてほしい。看護師の仕事(雑用も含めて)が多すぎるように思う。月に1回は連休がほしい(疲れがとれない)。」「1回/月くらいは年休をとりたいのですが、看護部からの指示で4月以降ほとんどもらっていません。休みは、夜勤の入りや明けにつくことが多く、休んだ気がしません。」 年休は労働者のもっとも基本的な権利であるはず。また勤務入り前や勤務明けは、本来は休みとは言えないはず。こうした過酷な勤務は、一日も早く改善される必要があります。

3. 「サービス残業」の常態化に怒り

「いくら超勤しても、師長チェックでけずられ、医事課でけずられ、割に合わない。」「先月の自分の超勤の時間は不明ですが、2時間以上は超勤はつかないと言われているので、ボランティアのように働いていると思うことがよくあります。」 事実だとすれば、まったくとんでもないことです。

4. それでも患者さんのための看護をめざして

「稼働率を上げるため、入退院が多く、外科系では重症化となってきている。患者様の名前と疾患名、現病状を把握するのがやっとなりで、本来の看護の提供ができていないと痛感している。」「スタッフの入れ替わりが激しく、看護の質が落ちていると思う。特殊な知識が必要なので、指導する人が必要だが、スタッフの経験が浅いので、教えられていないことがある。」 長時間労働、サービス残業、疲労の蓄積という状況のもとで、それでも多くのナースが希望を失わず、患者さんたちの側に立った看護を目指してがんばっている姿を垣間見ることができます。

同じ岡山大学で働いている教職員として、私自身もまだまだ看護の現場の状況についてほとんど知らないままに過ごしていたことを痛切に反省するとともに、一人でも多くの構成員の皆さんがナースの訴えに耳を傾けてくださることをお願いしたいと考えます。

最後になりましたが、今回の調査に全面的に協力してくださった山田佐登美看護部長に、改めてお礼を申し上げます。

さんぽみち



赤磐88箇所巡りにはまっている。休日ともなれば、寸暇を盗んで、にわか遍路となる。読みにくい地図を手がかりに歩くのだが、それだけに、たどり着けたときの喜びは何物にも代え難い。

道路沿いに位置する札所は、割合と簡単に見つかる。あつけないほどの場合も少くない。困難なのは、山の中にある場合である。一人歩けるほどの小径は、当然地図にはない。

迷い迷って困り果てる時、どこからともなくお婆さんが現れる。「御大師様」というのが決定的なキーワードである。「そこを上がつたところですよ」といとも簡単に教えてくれるのだ。

どう考えても、このお婆さんは、御大師様のお使いか、仏様のお引き合わせかと思えてくる。また、「だいしみち」と刻まれた石の道しるべも、とても便利な案内である。

もつとも、あるところでは、この道しるべが倒れていて、とんでもない方角を指示していた。思わぬ遠回りしたこともある。

迷路へと人を誘うだいし道(い)



単組だより



附属学園単組

附属学園では11月9日に附属学園校長懇談を行い、執行委員の代表と各校園長・副園長とで勤務条件などにかかわる要望事項について話し合いました。

その中で附属学校園は他の公立学校に比べ、教育実習、研究といった業務が追加されているため、実質的な仕事が増えており概して勤務時間が超過していること、強制ではなくとも、**せざるを得ない状況**があり、深夜までの勤務や休日出勤もめずらしいことではないにもかかわらず、勤務条件には公立学校を下回る項目が存在する現状があること、大学の中期計画の附属学校園に関する目標の中の公立学校との人事交流の活性化を図ることを達成するための措置としても公立学校の教職員の勤務条件と比べ下回るものについては、早急に対等以上の条件に是正する必要があること等を強く訴えました。(今年度附属中学校において人事交流がなされなかったことを特に懸念しています。)

さらに具体的な要望事項としては、待遇面で

岡山市内の校外勤務に対する手当の支給
妊娠代替制度の導入

各種医療検診の夏休み中の実施

設備面で

休養室の設置

教員用の更衣室、トイレの整備

等の項目をあげました。

待遇面においては、校外勤務や各種医療検診に関することは既に動き始めており、近々改善の見通しがもてること、妊娠代替制度については園長のほうからも大学へ強く要望していくということでした。設備面については、基本的には建て替えの時期を待たなければならないが、現状を見直し空きスペース等を利用して可能な改修は積極的に行いたいので協力をということになりました。

勤務条件などについてこのような会で忌憚のない考えを出し合うことはたいへん有意義であり、附属学園をよりよくしていくために今後も協力し合っていきたいということで共通理解ができたのではないかと思います。

農学部単組

今までに農学部単組では、日時を決めて色々なレクリエーションを企画してきましたが、スケジュールがあわないため参加でない方も多数おられました。そこで、今年度は、映画、スポーツ、娯楽施設などの文化的・娯乐的催し物に対して、期間を決めて入場料の半額補助をおこなうことにしました。ただし、総額は、一組合員当たり2,000円を上限としています。なお、組合員の家族、友達の共同利用も可能としています。

編集後記

組合合唱団についてお話しします。合唱団は2002年に全大教全国教研集会が岡山大学で開催されたとき、学外の方々をもてなすために結成されました。当時の名称は「『イマジン』を歌う会」。最初は10名もいなかったメンバーでしたが、最近では若い女性のメンバーも加わり、十数人が練習に参加するようになりました。お腹から声を出して歌うと、快感ホルモンが体中を駆けめぐるのでしょ。仕事の疲れも吹き飛んでしまいます。皆さんもよろしかったらのぞいてみてください。毎月3回、金曜の午後5時40分から教育学部の音楽棟3階のホールで練習しています。日にちや場所が変更される場合がありますので、来られる際には、組合事務所にご連絡下さい。



あなたの権利・みんなで守る

～あなたも組合の仲間になりませんか？～
あなたの組合加入が、あなたの待遇改善に！

主な活動：大学当局へ要求書提出・交渉
ソフトボール大会・芋掘り大会
ビアパーティ・コーラスなど



教職員共済 断然有利

～今春退職される皆様へ～

おすすめします！「さぼーとプラン」

公的年金の補完に「年金コース」予備資金・生涯保障に「生活保障コース」

詳細は <http://www.kyou.syokuin.or.jp/>

